

Instruction of Proceedings for Presentation Competition (14 pt)

Taro Tokyo (Mechanical Systems Engineering Laboratory) (12 pt)

Key words: Original paper, Guideline for manuscript, Instruction, Tokyo City University (10 pt)

1. はじめに

本年も例年通り、機械システム工学専攻修士課程 1 年生を発表者とした英語ポスターセッション形式の Presentation Competition (PC 2016) を開催するため、以下の原稿作成要領に従って予稿を作成しなさい。

2. 原稿作成要領

2.1. 原稿構成

原稿はポスターと同様に、研究背景、研究目的、研究方法、期待される成果の四つを基本の構成として記述する。

2.2. 原稿サイズと枚数

原稿はワープロで作成し、A4 サイズ 1 ページとする。左右マージンは 21 mm、上マージンは 22 mm、下マージンは 28 mm とする。本文は 2 段組で、コラム幅 80 mm、コラム間隔 8 mm とする。各章の間には 1 行分のスペースを空けること。

予稿集は、PDF で集めた原稿の縮尺を変更せず、A4 サイズで印刷するため、図表中の文字サイズは鮮明に見えるように留意すること。

2.3. 発表番号

発表番号は 10 pt のゴシック体 (Segoe UI など) を使用して、1 行目左端から「PC 20XX No. YY」と記入する。ただし、「20XX」は開催年 (西暦)、「YY」は発表番号である。

2.4. 題名と著者名・研究室名

題名は、2 行目に中心割り付け、14 pt の強調体 (太字) で記入し、著者名と研究室名は、3 行目に中心割り付け、12 pt の強調体 (太字) で記入する。

2.5. Key Words

Key Words は 3~5 個を目安とし、4 行目に中心割り付け、文字サイズ 10 pt で記入する。

3. 本文

3.1. 本文の書き方

本文は、両端揃え、文字サイズ 9 pt で記述する。フォントには原則として Times New Roman を使用すること。

本文の書き出しは Key Words から 1~2 行程度空けて書き始め、章題は Times New Roman などの明朝体の強調体か、Segoe UI などのゴシック体を使用し、左詰めで記述する。

3.2. 数学記号や単位記号の書き方

数式や単位記号の表記法については、JIS Z 8201 および 8202 を参照して記載する。

3.3. 図表の書き方

図表は本文中の説明と離れない位置に挿入する。また、図表の幅は原則として 1 コラムの幅以内に収め、やむ得ない場合のみ 2 コラムの幅とする。図表の左右に本文が回り込まないようにし、図表同士、あるいは図ないし表と本文との間には、1 行以上の間隔を取る。

写真は図として扱い、プリンタで原稿を印刷した際に、解像度が十分であるように注意すること。

4. その他の注意事項

4.1. ワープロソフトについて

ワープロソフトに指定はなく、本原稿作成書式を守って記述していれば問題はない。5 章の部分をコピーアンドペーストすることを勧める。

4.2. 提出日および提出時の注意事項

学科 web サイトから詳細を確認すること。

4.3. ポスター作成について

本テンプレートと同様に、学科 web サイトからポスター用のテンプレートをダウンロードして利用すること。

5. English template

Please use this section by copying and pasting for a template of your manuscript.

5.1. First section

Robotics has been operating in the world education system for over 15 years. The activity of Russian schoolchildren in robotic creativity has significantly increased only in the last 6-7 years.

5.2. Second section

The experience of class organization on robotics for students is reflected in published works of teachers and pedagogues of additional education, resource specialists, and engineers involved in popularizing this area of technical knowledge.